

3学期の行事から

3学期は短い学期です。また寒い季節ですが、各学年でも色々な取り組みが行われています。その取り組みの一端を紹介します。

○4年生

1月22日(金)社会科学習の伝統工芸を生かした町づくりの学習で、身延町下山の「富士川ふるさと工芸館」に出かけました。当日は、「手漉き和紙」体験と印刻にチャレンジしました。「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、体験したことは身に付く」といわれるように子どもたちにとって忘れられない思い出になったことでしょう。当日の様子は本校ホームページに掲載されています。(http://www.city-kai.ed.jp/sksho/)

○5年生

1月27日(水)に「NHK 放送体験クラブ」という学習プログラムに参加しました。甲府放送局に行き、プロの制作スタッフの方々から指導を受けながら自主制作の番組作りをしました。キャスター役、スタッフ役を5年生全員で分担し、米作り体験と学校周辺施設の紹介をしました。当日作成した制作番組の放送予定は、3月2日(火)午前11時40分だそうです。時間に都合のつく方はこちらをご覧ください。また、当日甲府放送局を訪問した様子は本校のホームページに掲載されています。

○1年生

1月28日(木)に生活科の学習ということで、「昔の遊び」をしました。内容は、昔からわが国に伝わる遊びである、お手玉、独楽(こま)回し、竹馬(竹で作った物ではなく市販の竹馬ですが)羽子板などを楽しみます。当日は、都合のつく保護者の方々(祖父母や両親)にも学習ボランティアとして子どもたちの遊びにも加わり、指導したり、一緒に楽しんでいただきました。子どもたちは大喜びでした。

竹馬あそび



コマ回し



○入学説明会

2月5日(金)に来年度入学児童保護者向け入学説明会が行われました。来年度の入学生は48名(男子22名,女子26名 内訳は若干違うかもしれませんが)になるようです。久しぶりに50名近い入学生を迎えます。敷島北小の児童数の減少傾向に歯止めがかかり、これからは常に50名前後の新入学生があると学年2クラスが常に維持することが出来るようになり嬉しい限りです。学校周辺は道路(県道竜王・敷島線)の拡幅工事も進んでいます。敷島北小の周辺は、これから益々安全性に優れ、清閑で快適な住宅街になります。きっと児童数も増えるのかな、そんな期待をしています。

学校教育の目的と学校行事

先日、ある保護者の方から、
「私がこの学校にいた(敷島北小に児童として在学していたという意味)頃は、スキー教室は泊まりで実施していたのに、いつの間にか日帰りになったのですね。」
と、いった話がありました。学校の対応に抗議、といった口ぶりではなく、「どうしてそうなったのか」と単に疑問を感じている様子でしたので、学校教育と行事の関係について説明します。

(1) 学習時間確保のための学校行事の見直し

平成14年度から学校完全五日制が実施されるようになりました。そのことで、月に(それまでは第2,第4土曜日が休みでした)6時間の学習時間が失われることになりました。年間では(8月の夏休み除き11ヶ月として)66時間の学習時間が失われます。このため、これまで行ってきた行事を見直すことが必要になりました。その結果、スキー教室などを廃止したり、日帰りにする学校が増えました。

(2) 学校教育でどんな力をつけたいか、という視点からの行事の見直し

学校教育の目的は、と問われると、「確かな学力を持つ心身共に健やかな児童の育成」(知・徳・体のバランスの取れた児童の育成)といえるかと思います。この目的のため、学校では日々の教育活動が行われています。教育活動は、教室での学習が中心になりますが、時には学校の外へ出た校外活動も行われます。どんな校外活動をするかは、学校により違います。同じ敷島地区の小学校でも、校外学習の内容、行き先、回数など違います。(勿論、似た内容はありますが)学校行事と校外学習、校内行事の関係をまとめてみると次のようになります。

○学校行事には校内で実施する行事と学校の外へ出て行う行事(校外行事)があります。

- ・校内行事(入学式、運動会、卒業式などの学校行事。児童集会、児童総会、読書集会、音楽発表会、保健集会などの児童会行事。二分の一成人式や親子レクなどの学年行事)
- ・校外行事(修学旅行、林間学校、スキー教室、スケート教室、球技会、春や秋の遠足)

学校行事は、職員が知恵を絞り、子どもたちを伸ばすためにはどんな行事を仕組んだら良いかを考え実施しています。ですから当然、見直しも行われます。これまで行っていた行事でも次の年には行われなくなるものもあります。逆に、新しい行事が加わることもあります。

ある本で、教育の目的(人を育てること)と学校行事の関係を、木の生長と枝を例に次のように説明していました。(以下引用※)

※それは、木を育てるようなものだ。木を育てるには(養分をつくる葉を持つ)枝が必要だ。だが、枝が多くなり過ぎると肝心の幹が育たないこともある。だから、時々「枝払い」をする。その時、木こりは、この枝は必要だ、この枝は切り取った方が良く、と木全体のことを考え判断する。枝を増やせば良いのではない、逆に増え過ぎた枝が木の生長を妨げることを木こりは知っている。

(3) まとめとして

保護者の方からのお話を元に学校行事のあり方について考えてみました。本校で実施している学校行事もこの何年かで大きく変化してきました。本校に長く在籍する先生に尋ねると、この5年間だけでも次のような変化があったそうです。

- ・スキー教室が日帰りになりました。(平成17年度)
- ・林間学校を5年生で実施するようになりました。(平成17年度)

それ以外にも、新たに実施するようになったもの、また逆に廃止になった行事もあるようです。ただ、神ならぬ生身の人間がすることです。時には間違ふこともあります。必要な枝を切り、不必要な枝を残すことがあったかもしれません。特に難しいのは、不必要な枝を見極める判断です。色々な行事を数多く行くと、何か素晴らしいことをしているような錯覚に陥りますが、多くなり過ぎた枝は、逆に木の生長を妨げることがあることも心に留めたいと思います。